

謹んで新年のお慶びを申し上げます

～ブレずにまっすぐ！～

衆議院議員

小山のぶひろ



氏に訊く

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年十月三十一日に投票票の行われた衆議院議員選挙では、112,464票をいただき、衆議院小選挙区において当選することができました。多くのご声援を賜り、励ましていただき、前回選挙の落選から四年間の活動を継続することができました。ご支持いただいた全ての皆様の思いやお考えを、ブレずにまっすぐ、国政に反映できるように全力を尽くします。また、選挙で訴えたことや姿勢を、変わることなく、一貫性を持って政治活動を行っていきます。一方で、選挙の応援の有無に関わらず、すべての皆様の現場の声や地域の声を伺い、意見交換していく姿勢は大切だと考えています。困っている問題や地域の課題があれば、党派を問わず、その解決に向けて全力を尽くします。

国会では農林水産委員会、災害対策特別委員会に所属することとなりました。規制改革推進会議は、現場の声にあまり耳を傾けない姿勢が見られます。特に労働法規制や協同組合に対する准組合員制度への新たな規制の導入など、様々な分野で、議員が国会の場で責任を持って、同会議の動向を

厳しく注視・チェックし、現場の声、新自由主義的ではない考え方、世界の動向を訴えていくことが必要不可欠であると考えています。

本年においても、カーボンニュートラルやSDGsへの取組推進が進むこととを考えます。カーボンニュートラルへの取組においては、中東遠東エリアの主要産業である自動車産業の皆様の現場の声をしっかりと伝えます。またSDGsの取組においては、私が10年間取り組んできた労働者協同組合法がいよいよ本年10月1日に施行されます。施行に向けては、特に税制面で問題が発生し、この問題の解決のために法改正も視野に入れた検討が進んでいます。確実な施行に向けて、様々な障害や問題の解決に向けて、一層、尽力いたします。

岸田総理は、臨時国会の所信表明演説において「新自由主義的な考えは…多くの弊害を生みだし…市場に依存しすぎたことで格差や貧困が拡大し、自然に負荷をかけすぎたことで気候変動問題が深刻化しました」と述べ、これまでの経済路線、とりわけ規制改革推進会議のメンバーにみられる考え方に問題があったことを述べました。立憲民主党の泉健太代表も述べたとおり、野党がこれまで主張してきた考えと共通する部分もあります。やつと政府与党も小泉政権以来の新自由主義的経済の弊害を正式に表明するに至りました。しかし、与党内には、まだ新自由主義的な勢力も多いことから、今後は、その弊害をどのように克服していくか、その具体策について、私たちも現場の声をしっかりと伝え、議論していきたいと思っています。また、主義主張や党派に関係なく、人として正すべき、過去の政権の様々な問題についても、岸田政権においてしっかりと「膿を出し切る」「改革すること」を強く期待します。

末筆ながら、今年一年の皆様の多幸をお祈り申し上げます。

衆議院議員 小山展弘